

# 阿蘇の草原を守るために 「野草紙を作ろう」プロジェクト

- 実施主体 NPO 法人九州バイオマスフォーラム
- 実施場所 阿蘇郡市内の小中学校および地元牧野
- 実施期間 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月



## ◇背景・ねらい

阿蘇の草原は、野焼きが行われ、草を活用する事で草原景観が守られてきたが、過疎化や高齢化、家畜頭数の減少により「これからの草原保全」が課題となっている。

そこで、阿蘇の草原の担い手となる阿蘇郡市内に住む小学生を対象に体験型草原環境学習を行い、草原が危機に瀕している現状や草原保全の為の課題について、共に考える場を提供し、次世代の担い手育成に貢献することを目指す。

## ◆実施概要

阿蘇の草原を守る次世代の担い手育成と草資源の有効活用を学ぶ事を目的として、阿蘇郡市内の小中学生を対象に体験型草原環境学習を行った。

### (1) 体験型草原環境学習

- ・阿蘇の草原の現状やバイオマスとしての野草の活用方法を学び、学習の成果として阿蘇の草原のススキを使った紙を漉き、卒業証書や絵手紙などの記念品作りを行った。

### (2) 身近な資源の利活用をテーマにした環境学習

- ・「阿蘇の草原保全や資源活用などへの関心を高めるきっかけ作り」として、地元のイベントや草原学習でススキを使った紙漉きを行った。
- ・放課後子ども教室で牛乳パックとススキを使った紙漉きによるハガキ作りを行い、子ども達に身近な資源の利活用について体験してもらった。

### (3) 自主財源の確保

- ・子ども達の草原環境学習を継続性のあるものにするため、野草紙や再生紙トイレトペーパーの販売を行った。



草原での学習風景



ススキ刈り体験



紙漉き体験

## ◆実施体制

- ・草原環境学習小委員会や阿蘇グリーンストックと協力、連携しながら事業を実施した。

## ◆成 果

- ・平成 27 年度は、阿蘇の小学校 8 校 214 名の子ども達が草原環境学習体験をすることができた。
- ・地元のイベント、原料にススキと牛乳パックを使った「ハガキ作り体験」には毎回 100 人ほどの参加者があった。
- ・廃食油と使用済みロウソクを使った体験学習では、子ども達と環境について考えながら、ロウソク作りを楽しんでもらった。

## ◆実施者の感想

- ・これまででは、環境学習の財源として様々な助成金の支援を受けて実施してきた。しかしながら平成 27～28 年度は助成金が確保できず、野草紙や再生紙トイレトペーパーの物品販売の収益による自主財源で実施してきたが、財源不足と熊本地震の影響もあり、当面は年間の実施校を 1 校に絞って継続したい。

学校名	学年	人数
KBFでの実施校		
阿蘇小	6	37名
坂梨小	3～6	37名
産山小	5	11名
関係団体と連携した学校		
阿蘇西小	6	9名
山田小	5～6	17名
古城小	6	11名
尾ヶ石東部小	6	26名
宮地小	5	66名
	計	214名